

第7回 議会運営委員会

令和6年4月2日(火)
5階 第1委員会室

開会 9時00分
閉会 9時35分

午前9時00分 開会

○委員長（樋田翔太君）

おはようございます。

ただ今から、令和6年第7回議会運営委員会を始めたいと思います。よろしくお願いいたします。

○委員長（樋田翔太君）

それでは早速ですが、1 議長諮問についてを議題といたします。

本議案につきましては、議長から説明をいただきたいと思います。

議長、よろしくお願いいたします。

○議長（成瀬徳夫君）

皆さん、おはようございます。

もっと早く本当は議長諮問出さないかんかったんですけども、4月1日から組織が変わるということで、4月1日にさせていただきますので、その辺だけ御理解くださいませ。よろしくお願いいたします。

着座で説明させていただきます。

議会運営委員会委員長 樋田翔太様

瑞浪市議会議長 成瀬徳夫

議会運営課題について

議会運営に関する下記事項について、委員会にて審議していただきますよう諮問いたします。

1. 議会基本条例の見直しについて。これは議会運営委員会をお願いしたいと思います。

議会基本条例第14条に基づき、本条例の検証を行うこと。

検証については、条例の見直し、条例の目的達成を図るとともに課題の洗い出しを行われたい。

特に、議会報告会のマンネリ化防止を図るために、開催目的を市民との意見交換会・意見聴取に重きにして、議会報告会名称を見直し検討をしていただきたい。

また、議会広報広聴委員会（会議規則第166条）の名称も見直すなどの検討をしていただきたい。

2. 特別委員会の設置について。これも議会運営委員会をお願いしたいと思います。

今後、瑞浪駅周辺再開発の進捗状況が急速に進んでいくことから、瑞浪市議会として特別委員会の設置について検討していただきたいということです。

3番といたしまして、通年議会について。これも議会運営委員会をお願いしたいと思います。

市民から、「議会は何をしているか分からない」などの声があることから、委員会活用において

は閉会中の継続審査の方法ではなく、活発な委員会活動を目指して、議会の透明性アピールと議員力アップを図るための通年議会を検討していただきたいと思います。

4番、委員会活動について。これ常任委員会の皆様をお願いしたいと思います。

委員会の活動については、閉会中の継続審査を基本に、課題（テーマ）に対して計画性を持って活発に取り組み、議会の最高規範である議会基本条例に準じた委員会活動に努め、提案・要望などを積極的に取り入れるなどの委員会力アップの取り組みを行うこと。

また、議会及び常任委員会で、「主権者教育」についてどのような取り組みができるか検討の上、主権者教育への協力や支援を明確にして取り組むこと。

5番、議会運営に関わる申し合わせ事項の見直しについて。議会改革特別委員会をお願いしたいと思います。

議会運営に関わる申し合わせ事項の課題の洗い出しを行い、見直しすべき事項については見直しを行われたい。

6番、瑞浪市に関連する課題における活動について。リニア・瑞浪恵那道路・新丸山ダム特別委員会をお願いしたいと思います。

リニア・瑞浪恵那道路・新丸山ダム事業については、瑞浪市に関連する課題を精査し、課題解決等に取り組むこと。

特に、瑞浪恵那道路事業の「道の駅」の計画関連については、委員会活動として課題を明らかにし、提案・要望など積極的に取り組むこと。

最後7番になりますけれども、広報広聴委員会活動について。広報広聴委員会をお願いしたいと思います。

広報広聴委員会には、市民、特に若年層は議会に対して興味を持ち理解してもらう施策を検討し取り組んでいただきたい。

特に「主権者教育」に関しては、議会として何ができるかなど、主権者教育に関しての協力や支援について検討を行い、取り組むこと。

また、「議会ちゃんねる」においては、市民が議会に興味を持ち理解してもらうために、読むほうの身になった構成を工夫されること。例えば図版の基本と言われる図版の比率を、記事40%、見出し20%、写真20%、余白20%を目標にし、写真は対角線上に配置し、紙面を大きく見せ、写真・見出しで注目させ、記事に引き込む工夫をして、内容は簡単明瞭で市民の老若男女が関心を持つ内容に心がける編集に取り組むなど検討をされること。

この7項目を諮問いたしますので、よろしくお願いをいたします。それでは諮問書を。

○委員長（樋田翔太君）

先に質疑を取らせていただきます。

それでは、ただいまの説明に対して質疑等ありませんでしょうか。よろしいでしょうか。

2番、棚町君。

○委員（棚町 潤君）

ちょっと確認ですけれども、4番の委員会活動の中に主権者教育についての文言が記載があるんですけども、これ常任委員会全部が考えるということなんですけれども、なかなか委員会によっては得手不得手がある中で、ヒットする委員会もあったりヒットしない委員会もあると思うんですが、そんな中でもやはり全員、委員会が考えるということによろしいですか。

○議長（成瀬徳夫君）

この主権者教育については、これ非常に難しく、主権者教育を学校でやるとしても、学校でやってくれるのが一番良いんですけども、議員がやるということになりますと、議員の思想が入りますよ。その可能性があるので、よほど考えてやらないといけないということがあります。その辺がありますので、各委員会で我々の委員会ではどういうことができるんだというのは検討してもらえれば結構だと思います。

そんな深くは言っておりませんので、それだけ御理解願いたいと思います。議員としてやると、どうしても思想が入ってしまう。その思想を、主権者教育に取り入れてしまうということは非常にまずいことなので、その辺も分かってもらいたいと思います。

それと昨日、教育長と教育事務局長が私と副議長に挨拶に見えまして、この主権者教育について話をしました。それで主権者教育もやらないかんということは分かっておりますので、議員さんのほうからそういう要望があれば対応させていただきますので、どうぞそのようなつもりでありますのでよろしくお願ひします、ということだったので、皆さんのほうでそういう主権者教育に関してこういうことをやっていこうという気があれば、その辺で皆さんで話し合っ、議員で話し合っただけならば結構なので、各委員会でと書いてありますけれども、委員会ではそのようなことを話をしたよという形で結構でございますので、そういうつもりでおってください。

以上です。

○委員長（樋田翔太君）

4番、熊谷君。

○委員（熊谷隆男君）

これ今の話で、主権者教育はやはり学教でやるべきだと僕は思う。それで主権者教育を主体的に議会がやるというわけにいかないの、国からのあれも、この間、国会で言いよるように、教育のほうで学校が教育制度の中で主権者教育を取り入れると。それで、議会は議会の果たすべき役割も主権者を示すために、市民の皆さんに議会が何をやっておるかとか、そういうことを要は教育の中の一部で入れろということだと思っんですよね。

それで、これその後の広報広聴にも出ておるけれども、広報広聴はその学教がやるその主権者教育協力についての記事を、やはりそれを市民に伝えるというのが本来の形で、議長が言われるところもそういうことだなと僕、理解するところで、やはり主体は学教のほうの方がやるが良いのではないかなと。

それでない形にならるので、今ちょうど教育長にも言っただいておるわけなので、きっと印籠が見せれるもので、こういうことに対して、各学校参加するとかそういうのは、委員会で、常

任委員会でやってもらって、それを取材するなりを広報広聴でやってもらうということ。主権者教育を議会が解釈して勝手にやるというのはそごができるので、教育機関がやるのと。そこはその中に入り込んでお手伝いをするという感覚だと思うんですね、主権者教育ということにしちゃうと。

これが逆のことを言って、知ってもらおうと、議会をよく知ってもらおうということを、イコール主権者教育ということではないので。それはそれ、選挙に参加してくれるという具体的なこと、皆さんに関心を持ってもらうということとは別のような教育のことなので、それとちょっと、俺は分けたほうが、学教がやってくれるのが一番良いと思う。

○委員長（樋田翔太君）

議長、何かございますか。

○議長（成瀬徳夫君）

私は、全委員会でやっていただいたものを、学教へ持っていきがどこへ持っていきが良いけれども、うちはこういうことをやってほしいなということを言えばそこでまとめてもらって、それでまたここで広報してもらえればありがたいなと思っておりますので、そういう考え方で書きましたので、その辺だけ分かっていただけあればありがたいと思います。みんなで取り組むという。

○委員長（樋田翔太君）

4番、熊谷君。

○委員（熊谷隆男君）

これ諮問を受けておるもので、答申をせないかんわけですけども、これ答申というのは、結果というか随時でこれ何かやりましたということで答申返せば良いのか、年度末に、というよりも来年年越した頃ぐらいに、この1年でこういうことに達しましたという検討をしましたということの報告で良いということが良いですかね。

○議長（成瀬徳夫君）

はい、結構です。

○委員長（樋田翔太君）

ほか、よろしいでしょうか。

○議長（成瀬徳夫君）

なければお渡しします。

○委員長（樋田翔太君）

今、御意見が出たように、得手不得手あるような、委員会でも取り組めるところ、話はしてもなかなか取り組めないところもあると思いますが、議長としましては、各常任委員会の理解ということがありますので、その文言は残しまして、各委員会に振って、最終的に答申で返すということにしたいと思います。

よろしいでしょうか。

○5番（柴田増三君）

議長の意の沿う答えになるかは分からんな。

○2番（棚町潤君）

予算的な話ししないかんの違うんですか。

○委員長（樋田翔太君）

やることがなければないで、それはしようがないので。

○4番（熊谷隆男君）

これを主体にやれば良いということやもんな。活動の中に入れると、ほかのことをやるなどということじゃないので。

○5番（柴田増三君）

通年議会の前、一旦何か話はしたことあるな。

○4番（熊谷隆男君）

この間も何か、それは話した。

○委員長（樋田翔太君）

また今年も1年かけて、検討の中に入れたいというふうに思っております。よろしいですか。

では、質問等、出尽くしたようですので、次に移ります。

では、書面のほう頂きたいと思います。

○議長（成瀬徳夫君）

議会運営委員長、樋田翔太様

議会運営課題についての諮問をお渡しします。よろしく願いいたします。

○委員長（樋田翔太君）

はい、頂戴いたします。

○4番（熊谷隆男君）

これ議長、僕らが答申あるようなときなんかは、一回議運を通したほうが良いということやね。

○議長（成瀬徳夫君）

だから、議運のほうから今度回りますので。

○4番（熊谷隆男君）

これは議運から、特別委員会・常任委員会に来るといったような形になるわけ。

○議長（成瀬徳夫君）

そういう流れですので。

○4番（熊谷隆男君）

直接、議長からの諮問じゃないということで良いわけやね。

○議長（成瀬徳夫君）

はい。

○委員長（樋田翔太君）

では説明を続けますが、その下に各常任委員会、特別委員会等に、文言をそのままお伝えしますので、議会の委員会名で各常任委員会、特別委員会等に付託させていただきます。よろしくお願

します。

取扱いについてはそのようにしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

[「はい」と呼ぶ者あり]

では次に移ります。

○委員長（樋田翔太君）

次に、2 その他についてを議題とします。何かありますか。

私のほうから一つ、前に予算委員会があり議場での予算説明があるということが、それが重複して議会時間が長くなる、説明員が入れ替わり立ち替わりするということでありましたが、他の議会の状況を調べますと、例えば総務部長が全てを説明する議会もありますし、特別会計につきましては担当の部長が説明するということもあります。

なので、一番短時間のところを見ますと、総務部長がもう全てを説明をして、それで進めようかなというふうに考えてはおるんですけども、特別会計につきましても、担当の部長が説明しに来たほうが良いのか、そのまま総務部長が一括で説明してしまっただけが良いのかということなんですけど、特に問題がなければ総務部長が一括で説明するパターンで行ければと思いますが、どうでしょうか。

5番、柴田君。

○5番（柴田増三君）

いや、説明することは良いけれども、中身の問題を言うんだけれども、また同じことを詳しくやるので、全体の中でどの程度、総務部長がやるにしても、この程度、総額が幾らですよとか、その程度で良いんやないかという話や。総務部長やることは。

○委員長（樋田翔太君）

4番、熊谷隆男君。

○4番（熊谷隆男君）

やらないかんなんていう規則はないので、あれをやるときは予算決算は全員そろってやる、理屈で言って。とにかく委員長はほかの議会がどうやこうやって言うけれども、常任委員会でまだ予算を扱っておるところはあれやらないけないわけ。そうだけれども、こっちは全員で予算決算やるときに、同じことを説明するわけやから、あれをやる意味がない。同じことをしゃべれっていうわけやね、本会議でやるやつは。

それを仮に話して概略で、形としてやらなきゃいけないという規則もないわけだから、あれをやってみんな概略、それこそ総務部長がして、これについて意見が言えるほどの説明なんか今まで受けたことがない、あのもので。

これを形式立ってやることなんかは、逆のことを言えば予算決算で総務部長、必ず出てくるもので、冒頭でやってもらえれば、みんなメンバー一緒なんやから同じことで、予算決算は執行部が提出するもんやから、執行部なんかもう、聞くも聞かんも自分たちで作ったやつなもので、聞かせる

必要なかないわけよ。議員が聞けばいいわけやから。それでやる意味がないと。同じことを2回やれと。あそこでしゃべってもう一回しゃべるわけやから、予算決算で。

俺それが本当に、予算決算委員会を常任化しておるところは、俺これで良いと思うわけよ。あれが別個であれば、こっちのところでやる時にはこっちが聞かんもんであそこで説明が要るんやけど、みんなが聞くんやから、全く必要ないと俺は思うんやけれども。それ何の意味をしとるのか説明してほしいわ、何でやりたいか。

○5番（柴田増三君）

議案上程そのものが、議案上程というのはどういう形式でやらないかんものなのか、その辺のところは、要は一応、予算決算の部分でこういう予算ですよと議案上程はせないかんわけやな。その議案上程も、そういうと何か議案上程、説明せんでも良いというような感覚に受けてしまう。

○4番（熊谷隆男君）

議会運営は、議会のほうが開催する権利があって、運営自体も議会が決めるんやね、議運で決めるわけ。議運がここで開催します、この方法でやります。こっちはそれに従って、執行部もそれに従ってやりますということで、向こうがこれやってくれとか、この規則に従ってやれと議場で示すところなんかないもんで、進め方について。

自由でやれるやつを、やらなければならないという規則はないというふうに承知しておるところで、ほか、それで言ったら予算決算委員会をつくること自体が間違っただよなことになるっていったらうので。

やってくれることは良いけれども、もう本当に、しゃべりたいかどうか知らんけれども、同じことを予算決算でも総務部長がしゃべるといふことの二度手間であるならば、予算決算でしゃべると言っただろうが、やらんで良いよということになるとしたら、予算決算始まる時に説明聞けんなんていうことというのは、不可思議やと俺思うわけ。

これから審議するときに説明もなく、この間、本会議で説明しましたのでって言われたら、これってないと俺思うわけ。これを聞いて質問もできるんやけれども、そこで。本会議であそこで、逆に言えば、あの説明の後に質疑が本当に現実的に行われるかということやと。現実的な話をしよう。

○委員長（樋田翔太君）

5番、柴田君。

○5番（柴田増三君）

議会運営ってどうのこうのと、審議するとかそういう問題ではなくて、あれ執行部というか、議案提案、上程というのは、議会とは全く関係ないことで。

○4番（熊谷隆男君）

説明やろ。議案説明や。

○委員長（樋田翔太君）

ちょっと一旦整理しますと、議会は開かれておりますけれども、その中で誰が説明するかとか、どんな説明をするかというのは、こちらにも裁量がある程度ありますので、その中で、予算委員会

でまた同じ説明をするのであれば、その部分については割愛すべきだということが、今この議運の風潮だというふうに思っております。

それで、例えば総額だとか、話しておかなければいけないところがある程度あると思いますので、そこまで切り詰めまして、それで進めていきたいなというふうに思っているんですけども、ただほかの事例を、見てしゃべってしまっているんですけども、ほかのところでは上程する案件が、総務部がまず提案するので、それが一般的な予算の全体。特別会計とかほかの会計につきまして、各部長が出てきて説明をするというところと、総務部長が全て一括でやってしまうところと、2通りありましたので、できるだけ簡略化しようと思えばもう総務部長が一括で全部説明して、後は予算委員会で審議していくと。

ただ、その説明の内容も、総額だとかもう本当に簡潔なものに努めるというところで良いかというふうに私は思っておりますけれども、そういった方向の進め方で良ければ、そういった方法に。

熊谷隆男君。

○4番（熊谷隆男君）

ぶっちゃけた話が、何で僕これ言い出したかという、僕も柴田さんみたいに思ってたわけ。向こうが予定を組んで、執行部のほうが、こういうことをしゃべりたいと、説明がしたいということだと。ところがちょうど副市長と総務部長と、それから理事とおるところで終わった後に行って、こんなみんな聞いとるか聞いとらんか、メモ取らずにタブレット見てもほかのところ見とるような説明要るんかいなと、こういう話を。

それを議会から言ってくれるのを待っておったぐらいの、そのことを言えば、誰もが無駄やと思っておる時間なわけよ。あそこで担当部長が出てきて説明、また同じことを説明するわけやから。執行部からしてみたら、議会が運営しとるから、議会が言い出さん限りは変わらないですよということを示しておるわけよね。これは正しい形だとおれ思うわけよ。

先ほど議長が言った、通年議会でも、何も無いところで新しくつくるときに、ここがどうかこうとか言わずに、その議会に合った形の議会をつくるわけよ。これって、何も違法行為を冒さなければ、新しいものをつくっていくということはできんわけよ。

そうでないと本当に新しいことを課題をいただいてもなかなか対応できなくなっていくので、今言った、そこのところだけをみんな聞きたければ聞いたら良いんだけど、本当に実があるかということを考えていただきたいというだけで、やってもらうことはやぶさかではない、皆さんに決めてもらえば良いわけだから、本当にそのときに実があるかということだけで、それをやることによって何が違うんやという話。

○委員長（樋田翔太君）

5番、柴田君。

○5番（柴田増三君）

言われることは分かるけど、局長に聞くけど、要は基本的にどういう決定というか、基本的にあれ、議会開会するやな、開会したときに通常、議案上程とか説明とか何かあるけど、その説明はな

しにしても、上程というものはどういう感覚のものなのか。

○2番（棚町潤君）

僕も熊谷委員がおっしゃるように、予算の説明をするのは、本当、時間の短縮を考えてほしいなと思う意見なんです。なので別に必要事項、予算書の1ページ目、2ページ目ぐらいを説明していただければ結構かなと思うんですけども、ただ今までそれをしてきた経緯とのもやはりちょっと考えないかなと思っていて、やはり議事録に残すということも、まあ大切にされていた部分というのもあるかなと思う中で、それを割愛して良いのかどうかという議論が必要なかもしれないなということは、僕は思っています。時間的には大賛成です。

○4番（熊谷隆男君）

これ議事録で言えば、委員会でも議事録取るもので、必ずその言葉が残るわけよ。本会議議事録であれ、委員会議事録であれ。これが同じことが載るわけよ。それで先ほどの委員長の説明だと、全部についてを総務部長が説明するということってというのは、時間短縮にはならへんわけ。最初の、柴田委員が最初に言ったのは、総務部の総体的な話のことを言ってはると僕は思ってたけど、今のやとほかの部のやつもあらかじめ変わらずに全部みんな総務部長がやるということになると、部長にやってもらったほうが説明内容がよく分かるような話で要らないと。

総体の歳入歳出全体だけ言ってもらおうというのはまだ話は別だけれども、今出ておる、全部を総務部長が代わって全部やるなんていうことは要らないと。

○委員長（樋田翔太君）

すみません、申し上げます。ちょっと話がずれてしまったんですけども、僕の説明が悪かった部分があって、総務部長が一括で全てを説明すると。ただその内容については、大型の事業とか、特に去年から大きく変動があったところだけ述べていました、ほかの委員会では。

やはりその大きな変動があったところについては、本会議でも一応説明するほうが、私は良いかなと思いましたが、総体的な予算の総額、それと今年はどういった事業で、この辺が多くなっていますという、その部分だけを説明する形が良いかなというふうに思っておるんですけども。

そこも言わずに総額だけの説明でということではよろしいですか。

はい、どうぞ、熊谷君。

○4番（熊谷隆男君）

それは、だから予算でしっかりやってもらったらどうやってこと。そうしたら委員長、ほかのところがどうやって言えば、それがもう印籠のように物を言うけれども、そんなものは瑞浪が正しいって信念があれば、先駆者になり得るということだってあり得るわけよ。だから別に良いんだけど、あの長い時間をそれをやって本当に頭に入るかという実を取れば、形としてやるのならば、最低総体の今年度、当初予算で例えば総額幾ら幾らになりましたと。今回の予算については何々を重視したために去年よりも膨らんでおるとか、そういう総体の説明はそのときにしてもらえれば僕は良いと思う。

これを全部の部のやつを、総務部長が代わってやったって、民生部においてはこういう事業があ

って、それなら民生部長がやったほうが良いということになってしまうので、そういうことはあそこでやれば良いと。

それで今、一括して総務部長がやるって言ったって、しゃべること総務部長の荷が重たなるだけのことで、ほかの部のこともしゃべらんなんわけやから。俺はそれをしゃべったって実のないことで、読み上げだけの話になってしまうので、それよりはそれはもう予算決算でやってもらって。ただこれは市長が所信表明でも言われるので、大体同じ内容になるわけ。同じことを繰り返すわけ。

そうだけれども、せめてそこぐらいにしてほしいと。総体の総額についてであったりとか、予算編成で出るもので、いつも。毎年出る。あれについての総体の話してぐらいのことは良いんやけれども、詳細なところまでを読み上げでこう、どうのこうのってあれを聞いて、目で追って、それが理解できるかって言われたら終わり。あの説明では、やるならもっと徹底的に長いことやってもらいたい、そんなこと言うのなら。

中途半端なあんな説明、読み上げだけの話なら、原稿作って読んでるだけやから。全くこの実がない話じゃないかと。それで、このこと苦勞するだけで、読み上げるほうも。わざわざ行って前に出てやらなって言って、テレビ映るかもしれないとか思わんわけよ。

おれ、それなら、そんなことなら、最初のその総務部長がそれでって言うことの総体の話なら、そこに預けておってない部分の全体の話をしてくれれば良いと思う。

○委員長（樋田翔太君）

今おっしゃること分かるので、そういうことで行きたいんですけども、特別会計を別でしゃべってみえる議会と、特別会計まで一括で、もう総務部長が説明してしまう議会がありまして、一番簡略な形を取ろうと思うと、総務部長が一般会計から最後まで話をして。

○4番（熊谷隆男君）

ほかの議会はいいんだわ。

○委員長（樋田翔太君）

うちとしてはどういう体制を取るかということなんですけれども、総務部長が一括で説明する形が簡略かなというふうに思いますので、そういった形を取れば良いかなというふうに思っておりますが。

○4番（熊谷隆男君）

一括でということ、総務部長に総体の話、総括の話をしてくれというのが、俺が一番、意味合いとしては納得。やり始めたら動議出して停止を求めるでな。

○委員長（樋田翔太君）

5番、柴田君。

○5番（柴田増三君）

僕も全く考え方は一緒だけど。違うことを言っとるわけじゃないけれども、要は基本的に、今の条例改正にしても、いろいろその議案提案として全部出てくるもの自体が、項目と簡単なその中身の説明だけで済むんやないかなということも含めて、その議案説明というか議案提案というのとはど

ういうものなのかということに僕は聞いとるだけ。そこのところを全て簡略化したっていいんじゃないかということ。

○委員長（樋田翔太君）

各委員会で、それこそ詳細な説明を求めますので、議会での説明、議場での説明はほとんど簡略なものにしていただくという方向で良いですね。はい、分かりました。

熊谷君。

○4番（熊谷隆男君）

これを当初予算したら本当よく分かるわけですよ、3月議会で。あとの議会はみんな補正になってくるわけだけれども、これなんかでも同じことをやっておるわけ、今回の補正はあれやってと。これって同じことを、予算決算に全員そろっておるところで言うわけだから。その辺のところはみんなここで決めれないのならば執行部に任せるって言っちゃったらどう。

自分らがやりたいわけじゃない、合理的に考えて、やってくれんほうが良いと思っておるわけだから。

○委員長（樋田翔太君）

事務局総務課長 加藤真由子君。

○事務局総務課長（加藤真由子君）

補正予算につきましては、今までも一般会計は正村理事がまとめて説明しています。それで当初予算が、今、先ほどの3月議会では、各部長が所管の部分を説明されていきました。それが長かったと思うんです。

それで熊谷委員がおっしゃったのは、その長い時間を短くするということだと思うんですけれども、やはり議案上程は必要がありますので。

議案に載って、議案書のほうで、第1条、総額、第2条、債務負担とか、第3条、あの辺りは必要だと思うんですけれども、細かい説明はここで決めてしまえば良いと思うんです。

○4番（熊谷隆男君）

ここで言うと課長の意見が主体になってしまうので手を挙げてしゃべらな。先ほど言ったみたいに、執行部に上げていったら、それなりの形をつくるんじゃない。省略することに対してどうやというのを、本来で言えば始まる前にこれを出したら、ちっとは下から意見ぐらい聞いて、どういふうに思うところから勉強してから言わないと。ここで言ってゼロのところからと聞かれりゃ、思い思いの話をするだけのこともんね。どっちみち、そんな規則のこと言われたり、過去のことやらほかのところの話になってくれば、どれが正しい、ほかのところは正しいとなっていっちゃうわけなので。

○委員長（樋田翔太君）

今、言われたように、補正予算のときは、総務部長が一括で説明しますけれども、当初予算のときだけ今の形を取っているんです。だからそれは変えることは、補正予算でやっているののでできないことはないの、そういうふうにはやってももらえないかというふうに、議会のほうから打診してや

っていただくことは。

○委員（熊谷隆男君）

考えてくれて言えば考えてくれるって。

○5番（柴田増三君）

今、委員長、説明してくれるのは良いけど、なるべく簡略化して、最小限のできる部分で検討してくださいということになるわけで。

○委員長（樋田翔太君）

そのように調整したいと思います。

○事務局総務課長（加藤真由子君）

もう1点だけ良いですか。

○委員長（樋田翔太君）

はい、どうぞ。

○事務局総務課長（加藤真由子君）

決算では会計管理者が一般会計から介護保険までしています。それで事業会計だけを建設部長がしていますので、恐らく企業会計部分は理事がするのは難しいんじゃないかと思うんです。

○5番（柴田増三君）

できるところでやって良いので、要は簡略化してくれと。

○委員長（樋田翔太君）

棚町委員。

○委員（棚町 潤君）

ちょっと先ほどの件に戻りますけれども、議事録の件ですけれども、割愛するという方向性になるのであればですけれども、今、事務局のほうでしっかりと会議録を作っていたかと思えます、予算決算の委員会の。去年から始められたんですかね。

なのでそれを引き続き続けてもらうことで、議事録は割愛できるのかなというふうには思っていますので、それを引き続き、お手間ですけれども続けていただくことが大事かなと思いますので、それだけお願いしたいなと思います。

○委員長（樋田翔太君）

3番、柴田君。

○3番（柴田幸一郎君）

私もちょっとだけ御意見を言わせてもらいたいんですが、まず予算の説明はほとんど課長がするわけですよね。それで部長はあまりそのときには声を出さない。ならば、議会中の一番ははじめのときに、部長自らが説明してもらうのが、私は良いんじゃないかなというふうには思っています。

ですので、今の形が悪いわけではなく、私にはちょうど良いなと私は思っています。こういう意見ですという感じです。

○委員長（樋田翔太君）

今、意見としていろいろ承りましたが、簡略化できる方向でちょっと相談しておきますので。

一応、報告しておこうと思いました。

では、ほかに何かありますかでしょうか。

2番、棚町君。

○委員（棚町 潤君）

これ1年間議論して1年後から始めるのか。スタートはいつぐらいを考えていらっしゃるんですか。

○委員長（樋田翔太君）

早ければ次の議会からやりたいと思っております。

○委員（棚町 潤君）

はい、分かりました。

○委員長（樋田翔太君）

3番、柴田君。

○委員（柴田幸一郎君）

この答申をまとめるのは委員長であるというふうに思っておるんですが、この答申をまとめるのは。

私たちはこの答申は大体どのぐらいというような感覚でおればよろしいでしょうか。

○4番（熊谷隆男君）

いいよ、12月でも2月でも。

大体そのぐらいやと思っておればいい。

○委員長（樋田翔太君）

委員の任期中ということで良いと思います。

あと、よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

では、これにて第7回議会運営委員会を閉会いたします。

ご苦労様でした。

午前9時35分 閉会